

【各教科等のグランドデザイン】

教科名

何ができるようになるか

○各教科等で育成する資質・能力

何が身に付いたか

○各教科等の学習評価

- (1)シティズンシップ教育の実現のため、実社会に必要な国語の知識や技能
- (2)「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、探究的な見方を取り入れ、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力、他者との関わりの中で伝え合う力、自分の思いや考えを広げたり深めたりする力
- (3)ダイバーシティ教育の充実のため、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚、言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方の深化

- (1)シティズンシップ教育の実現のため、実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けた。
- (2)「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、探究的な見方を取り入れ、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりした。
- (3)ダイバーシティ教育の充実のため、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしており、言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めることができる。

生徒の実態

- ・ICT 機器などを活用しつつ、主体的に学ぶ機会や対話的に学ぶ機会が少なく、深い学びを実践している生徒が少ないことが課題である
- ・学校行事やキャリア形成活動において、主体的に活動している生徒が少ないことが課題である

生徒たちの発達をどのように支援するか

○配慮を必要とする子供への指導

- ・必要に応じて、生徒の特性を踏まえた個別の支援計画を作成するとともに、教職員間で共有を図り、教科全体で支援する。
- ・ライフスキル教育を通して、育成された能力を授業における他者との対話やグループ活動の円滑化へと活かすことができるよう指導する。

目指す生徒の姿

- ・教師や友人と協働しながら、学問のよさを理解するとともに、学び方を工夫しながら深い学びを実践しようとする生徒
- ・グローバルな課題の解決に挑む力、持続可能な社会づくりに貢献できる力を持つ生徒

何を学ぶか

○各教科等の教育課程の編成

- (1) 全ての教科の基礎となり、生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができる。
- (2) 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を身につける。
- (3) 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を身につける。

どのように学ぶか

○各教科等の授業の実施

- (1)探究を軸とした、教科横断的な学びの実践
- (2)言語活動を軸にした基礎～応用的な「話すこと・聞くこと」「読むこと」「書くこと」の能力の育成
- (3)ICT を効果的に活用することによる「主体的・対話的で深い学び」を行う授業の推進

実施するために何が必要か ○指導体制の充実、家庭・地域との連携・協働

【探究を軸とした学びの推進】

- ・STEAM 教育・教育 DX・探究的な見方を取り入れた教科指導の充実

【キャリア形成を支援する指導体制の充実】

- ・進学希望者向け課外活動、外部模試（小論文模試）
- ・進路希望に応じた学校設定科目の設置

各教科等の特質に応じた「見方・考え方」

- ・国語科は、様々な事物、経験、思い、考え等をどのように言葉で理解し、どのように言葉で表現するかということが重要である。
- ・そのため、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉え、その関係性を問い直して意味付けるといった活動を行い、その活動を通して自分の思いや考えを形成し深めることが国語科における重要な学びである。
- ・国語科において、言語活動を通して言葉による見方・考え方を働かせることが求められている。
- ・言葉による見方・考え方とは、自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係を言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉え、その関係性を問い直して意味付けることを指す